

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ03-15-5/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン

ア) 『バーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッション概報』(英)

刊行：2015（平成27）年12月

イ) シンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化

遺産保護と復興—」を開催：2016（平成28）年1月24日

ウ) 「バーミヤーン遺跡の大仏再建に関する研究会」開催（日本イコモス国内委員会と共催）：2015（平成27）年7月22日

2. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

ア) キルギス：ユネスコ文化遺産保存信託基金事業による、キルギス共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力および人材育成ワークショップの開催（研修生8名の参加）：2015（平成27）年10月

『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』刊行：2016（平成28）年3月

イ) イラン：『イランにおける文化遺産視察および先方関係機関との意見交換に関する報告書』刊行（日/英）：2016（平成27）年7月/9月

中央アジア歴史都市会議における論文発表：2015（平成27）年9月

イラン文化遺産・工芸・観光庁の次官との意見交換：2015（平成27）年10月

ウ) カザフスタン：シルクロード世界遺産登録調整会議への出席：2015（平成27）年11月

エ) エジプト：JICA事業「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力



「紛争と文化遺産」シンポジウムの様子

論文

- ・イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究（1）—歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題—（山田大樹）2015 年度日本建築学会 大会学術講演梗概集F-1 日本建築学会 pp.405-406 15.9

報告

- ・バーミヤーン遺跡の破壊、そして現在（山内和也）『黄金のアフガニスタン』産経新聞社 pp.187-191 16.1
- ・『紛争と文化遺産』シンポジウム（山内和也）『INFORMATION』10期1号 JAPAN ICOMOS pp.39-40 16.3
- ・シルクロード キルギスのアク・ベシム遺跡 唐代城壁の一部出土（山内和也）『読売新聞』 15.12.30

②国際協力・交流等 Area11

- ・シンポジウム「紛争と文化遺産」「人類の宝」保護への国際協力を（山内和也）『産経新聞』 16.2.4
- ・九州国立博物館特別展「黄金のアフガニスタン」悠久の輝き再び 寛容の地に開いた花（山内和也）『西日本新聞』 16.1.10
- ・戦乱の地 守られた遺産『朝日新聞』 16.1.19
- ・戦乱アフガンで受難……収集、返還へ 流出文化財日本が救う『読売新聞』 15.8.15
- ・イスラム教の国 保存に課題 The Asahi Shimbun Globe 15.9

発表

- ・イランの建築と文化（山内和也、山田大樹）2015年度トルコ文化研究センター研究会 武庫川女子大学 15.6.4
- ・キルギス共和国における博物館をめぐる課題（山内和也）第21回東アジア・中央アジア分科会 15.7.13
- ・イランおよび中央アジアにおける歴史都市景観保護のための基礎的研究(1) —歴史都市ヤズドの景観保護政策と課題—（山田大樹）建築学会 東海大学 15.9.4
- ・「Preservation as the Sustainable Historic District」（Hiroki Yamada）The 8th International Policy Forum on Urban Growth and Conservation in Euro-Asian Corridor Tehran-Hamadan Conference 2015 15.9.30

刊行物

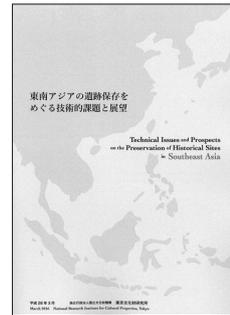
- ・『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th mission』東京文化財研究所 15.12
- ・『キルギス共和国チュー川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡—2011～2014年度—』東京文化財研究所 16.3
- ・『紛争と文化遺産：紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興』東京文化財研究所 16.3
- ・『バーミヤーン東大仏「足」状工作物構築と再建に関する資料集』東京文化財研究所 15.7
- ・『イラン文化遺産の現地調査及び関係機関との文化遺産保護に関する意見交換の報告書』東京文化財研究所 15.8
- ・『Research Report on the Safeguarding of Iranian Cultural Heritage』東京文化財研究所 15.9

研究組織

- 川野邊渉、山内和也、久米正吾、山田大樹、山藤正敏、近藤洋（以上、文化遺産国際協力センター）、間倉裕生、古川尚彬、谷口陽子、藤澤明（以上、客員研究員）、森本晋（奈良文化財研究所）

『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』(②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年11月13日に東京文化財研究所において開催した同題研究会の内容を収録した報告書。インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマーの5か国より招聘した考古・建築遺跡保存専門家からの書き下ろし論考と、会場からの質疑応答を含む総合討論の内容を採録。日本語・英語、2016年3月刊行、104ページ。



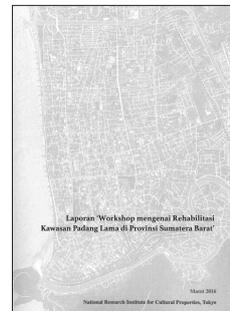
Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat (②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年3月に刊行した『西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究』(平成24~26年度日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究(B)海外学術調査、研究課題番号:24404022、研究代表者:亀井伸雄 東京文化財研究所所長)のインドネシア語版。データ収録CD付録。インドネシア語、2015年8月刊行、74ページ。



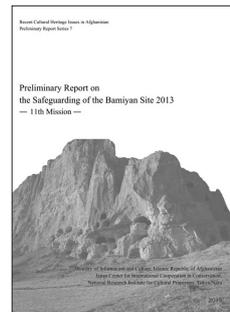
Laporan 'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat' (②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年8月26日にインドネシア西スマトラ州パダン市内において開催した「西スマトラ・パダン歴史地区の再生に関するワークショップ」(西スマトラ州観光・創造経済局主催)の内容を収録した報告書。同ワークショップでの発表資料と総合討論の概要に加え、パダン歴史地区の価値評価と復興の方向性等に関する日本人専門家からの諸提言を採録。インドネシア語、2016年3月刊行、150ページ。



Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission (②セ03の一環として実施)

本書は2013(平成25)年9月から10月にかけて派遣したバーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッションの英文概報である(和文は2015年3月に刊行)。同ミッションで実施した壁画の状態調査、環境計測データの回収、考古遺跡の現状調査等について報告した。また、武庫川女子大学が作成したバーミヤーン新博物館の基本設計案も補遺として収録した。英語、2015年12月刊行、95ページ。



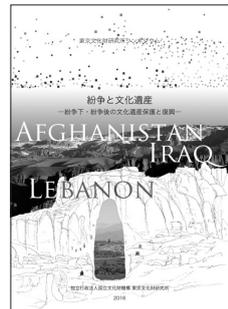
『キルギス共和国チュウ川流域の文化遺産の保護と研究 アク・ベシム遺跡、ケン・ブルン遺跡-2011～2014年度-』（②セ03の一環として実施）

本書は平成23年度から26年度にかけて、キルギス、アク・ベシム遺跡及びケン・ブルン遺跡において文化遺産国際協力活動の一環として実施した調査研究事業の報告書である。アク・ベシム遺跡の発掘調査で出土したイスラーム時代の遺構や遺物、動植物遺存体、放射性炭素年代結果等についての報告及びケン・ブルン遺跡の測量と表面採集遺物の分析結果を掲載した。補遺には漢文史料に基づくアク・ベシム遺跡の歴史学的考察も収録した。日本語、2016年3月刊行、108ページ。



『紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—』（②セ03の一環として実施）

2016（平成28）年1月24日に東京文化財研究所において開催されたシンポジウム「紛争と文化遺産—紛争下・紛争後の文化遺産保護と復興—」に関する報告書である。4名の講演者による4本の講演と、パネルディスカッション「紛争下・紛争後の地域における今後の国際的な文化遺産保護協力の在り方」を録音音声から起こし、整理・日本語訳したものを収録している。日本語、2016年3月刊行、91ページ。



『フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復』（②セ06の一環として実施）

本書は、2008（平成20）年より2014（平成26）年までタジキスタン国立古代博物館において実施した、フルブック遺跡出土壁画断片の保存修復事業の最終報告書である。フルブック遺跡は同国南部に位置する9～11世紀半ばに利用された都城址であり、1983年には、本来壁面幅1m×高さ2mに描かれた壁画の一部であった10～11世紀の製作と思しき壁画断片が発見された。この壁画断片を対象として実施された調査及び保存修復処置、そして博物館での展示に至るまでの一連の保存修復事業の成果を報告した。日本語、2016年2月刊行、159ページ。



在外日本古美術品保存修復協力事業 The Cooperative Program for the Conservation of Japanese Art Objects Overseas（②セ04の一環として実施）

